

畿山河

第21号

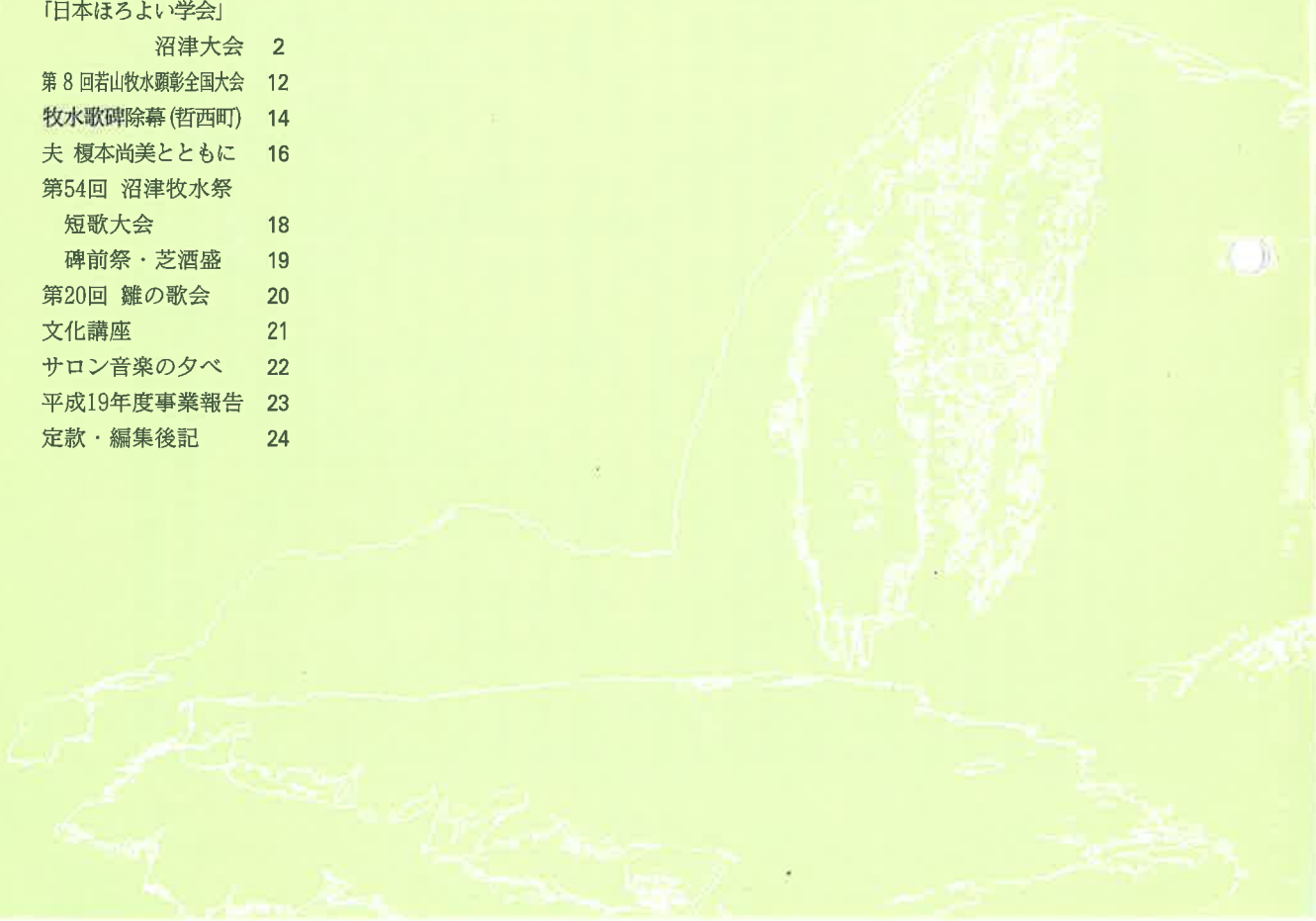
平成20年5月15日

発行

社団法人沼津牧水会

目次

「日本ほろよい学会」	
沼津大会	2
第8回若山牧水顕彰全国大会	12
牧水歌碑除幕(哲西町)	14
夫 榎本尚美とともに	16
第54回 沼津牧水祭	
短歌大会	18
碑前祭・芝酒盛	19
第20回 雛の歌会	20
文化講座	21
サロン音楽の夕べ	22
平成19年度事業報告	23
定款・編集後記	24



「日本酒党、沼津に集う」

「日本ほろよい学会」沼津大会



「日本ほろよい学会」は、平成十一年十月に秋田市で若山牧水顕彰全国大会が催されたとき、「日本酒の復権」をねがう当時の石川錬治郎秋田市長の発意で設立され、以後毎年、秋田、東京、宇都宮で開催されてきた。

初代会長に伊藤滋東大教授、名誉会長に暁峻康隆早大名誉教授、副会長に歌人佐佐木幸綱早大教授、直木賞作家西木正明氏、石川錬治郎氏が就いた。

「日本ほろよい学会」を沼津でとの要請を受けた本会は、牧水没後八十年、沼津市若山牧水記念館開館二十周年記念事業として、平成十九年九月二十一日（金）に「日本ほろよい学会」沼津大会を沼津東急ホテルで開催した。

この大会の開催に当たり、本会会員の有志によって実行委員会を組織し、大会のテーマを「酒、そして牧水」と定め、内容等について検討を重ね、準備を進めて来た。静岡県下の全酒造メーカー、「日本ほろよい学会」発祥の地である秋田県、牧水の生地宮崎県の酒造メーカーから自慢の純米吟醸酒を主にした出品を募り、酒の肴は地元沼津の海の幸を中心とした特別メニューを取りそろえた。

会場いっぱい設けられた三百六十余の座席は参加者で満席となり、実行委員長小林茂樹本会理事長の挨拶と司会で始まり、現会長の歌人佐佐木幸綱早大教授、宮崎県日向市東郷町若山牧水記念文学館館長の歌人伊藤一彦氏、榎本篁子沼津市若山牧水記念館館長夫妻、秋田市、延岡市、日向市、宇都宮市、土肥等からの参加者、第三回沼津文学祭「俳句」沼津」の助言者である俳人の黒田杏子、榎本好宏の両氏をはじめとする俳句の関係者が紹介された。

「日本ほろよい学会」の名にふさわしく、佐佐木氏と伊藤氏の「牧水と酒のうた」をテーマにした対談があり、酒にまつわる歌史の解説と牧水の酒と歌についての楽しい瀟灑が披露された。佐佐木氏が参加者にテーブルの酒を傾けながら話を聞くように勧めたのを契機に、待ちきれなかつたかのように各テーブルで杯を傾げる姿が見られた。対談が終わり、改めて地酒の原酒「牧水」で乾杯。参加者はおいしい肴に舌鼓を打ちながら、各地の銘酒を堪能した。参加者には、本大会を記念して刊行された「牧水酒のうた」と牧水の名が染められた盃が記念品として配られた。

牧水と酒のうた

「酒、そして牧水」をテーマに開催された「日本ほろよい学会」沼津大会では、同会会長の佐佐木幸綱早大教授と宮崎県日向市東郷町の若山牧水記念文学館伊藤一彦館長が「牧水と酒のうた」について対談した。

「沼津大会」の開催を記念して本会が刊行した『牧水 酒のうた』（販価五〇〇円）の解説を佐佐木会長にお願いすることができたが、この対談の中で、佐佐木会長は、『牧水 酒のうた』への自らの解説を引用しながら、酒にまつわる歌について語った。

牧水は生涯に八千首余りの歌を作ったが、佐佐木会長は、牧水の二十代半ばの作品である

白玉の歯にしみにしみとほる秋の夜の
酒はしづかに飲むべかりけれ
を挙げ、この歌には、秋の澄んだ冷
気が背景にあると解説し、牧水が酒
を歌った三百六十七首のうちの最高傑作だと
した。

牧水が最も酒を飲んだのは一つ年上の人妻
と恋に落ちた早大の学生時代で、失恋して自
虐的に酒を飲んでいたが、信州を訪れた時に
「白玉」を作った。この歌を取めた歌集『別
離』の出版を機に牧水は世に知られるようにな
ったと解説し、牧水が飲んだ酒は、ほとん
どが日本酒だったが、コニヤックやウイ
スキーを飲んだ歌もあることも紹介した。

伊藤館長は、佐佐木会長の詠んだ「酒の
歌」の中から

ひぐらしを聞きつつ腹に沁ませゆく
日本の酒にしくものはなし
長生きはめでたしとのみいえざれど
酒飲むための一生長かれ

の二首を挙げて絶賛した。

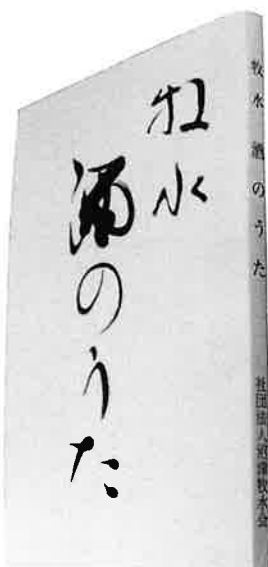
また、焼酎生産が盛んな九州にあって、
宮崎県は日本酒生産の南限だと説明。同
県南部は、かつて薩摩藩だったことから
焼酎を飲むが、牧水の生地東郷町は北部
にあり日本酒が主流だと語った。

佐佐木会長は、日本人が酒を飲むのは幕末
頃からで、祭りの時などが多かった。失恋を
して酒を飲むという牧水のような飲み方はな
かった。大学時代、金に困っていた牧水は、
叔父から借りるなどして酒を飲んでいった。結
婚後、金がない時でも、家族に金がないこと
を感じさせず、長男の旅人さんは、「家が貧乏
だとは思わなかった」と述懐していたことな
どを紹介した。

牧水の酒の飲み方にも触れ、いくら酒を飲
んでも乱れることはなかった。朝二合、昼二
合、夜六合、都合一日一升の酒を飲むのが日
常で、客があれば二升、三升と盃が進み、家
には一斗樽が置かれていたという。

酒の歌の歴史は古く、万葉集の同伴旅人の
「讃酒歌十三首」が有名だが、当時は儀式の
中で酒を飲むことはあっても、牧水のように
個人的に飲む習慣はなかった。個人的な酒の
歌が歌われるのは幕末近くになってからのこ
とで、良寛、橘曙覧が知られるが、牧水ほど
酒の歌を多く残した歌人はいなかったという。

佐佐木会長と伊藤館長の対談を聞きながら
日本人と酒、酒と和歌の歴史、牧水の酒の飲
み方、「牧水の酒の歌」の和歌の歴史上の位
置づけについて、認識を新たにした方々も多
かったのではないだろうか。



「沼津大会」を終わって

ドーン、舞台中央に据えられた大太鼓が鳴り響き、「酒、そして牧水」をテーマとする第九回「日本ほろよい学会」沼津大会の開始です。平成十九年九月二十一日（金）午後六時、沼津東急ホテル四階ロイヤルホールには、十人が座る丸テーブル三十六卓が設置され、日本酒党を自任するつわものと牧水ファンが全国から三百数十名集まっております。

沼津大会実行委員長の林茂樹本会理事長の挨拶で開会となりました。「日本ほろよい学会」会長で、日本を代表する歌人佐佐木幸綱先生の挨拶、つづいて佐佐木先生と東郷町若山牧水記念文学館伊藤一彦館長とで「牧水と酒のうた」のテーマにそった興味深い対談が繰り広げられました。

各テーブルには、沼津の渡辺酒造謹製の吟醸酒「牧水」のほか、静岡、秋田、宮崎の各県からの銘酒が並べられ、佐佐木先生も盃を傾けながらのお話で、先生に勧められたのを機に、対談の途中から飲み始めた方々も多くおられたようです。

対談が終わると、斎藤衛沼津市長の発声で「牧水」による乾杯となりました。準備された銘酒は、静岡県酒造組合の全二十八社、秋田県から十一社、日本酒製造の

南限と言われる宮崎県延岡市から千徳酒造の計四十社の自慢の吟醸酒です。

肴は、魚の美味しい沼津らしく、針子の炙り、鰹の刺身と生白子、太刀魚の塩焼き、秋刀魚の棒寿司等々が用意されました。

テーブルには、片口が二、三個ずつ置かれました。保坂輝夫本会理事の紹介による三人の陶芸家が数か月かけて制作した百個です。それぞれ形も大きさも異なり、たいへん趣があるものでした。

市外から参加された方々は、佐佐木会長、「日本ほろよい学会」発祥の地秋田から前市長石川錬治郎副会長（現秋田県議）等十一名、日向市からは十七名、延岡市から四名、宇都宮市から十八名、東京牧水会から二名、土肥から七名などでした。

お迎えするのは、本会会員有志で組織した沼津大会実行委員十七名です。実行委員会の事務局長を金子安夫本会事務局長が、事務局次長を小出和夫が務めました。一年ほど前の平成十八年八月八日に第一回の実行委員会が開催され、十九年に入ってから、ほぼ毎月開催されました。毎回のようには、沼津牧水会事務局の伊藤さんの心のこもった手製のカレーライスでお腹を満して議論を重ね、事務

局の大島さんや羽根田さんにはこまごまとお世話をいただきました。

渡辺幹夫渡辺酒造社長に静岡県酒造組合の土井会長と小澤事務局長をご紹介いただいたおかげで、県内の全酒造業者の出店が得られたのが、この会の成功した大きな要因です。

渡辺社長からは、静岡県地酒まつりや新酒鑑評会の開催経験を踏まえてのアドバイスを多々いただきました。地酒まつりや鑑評会にも案内していただいて、その雰囲気を実感できたことは大いに参考になりました。心配していた入場券の販売は、実行委員の努力の甲斐があつて八月には完売となり、多くの方々にお断りするようなこととなってしまいました。うれしい悲鳴でした。

宴は、遠来の方々のご挨拶、延岡の塩月眞氏と東京の田原大三氏の短歌朗詠、芸能集団「ようそう」による和太鼓演奏等々つつづき、出品四十社の自慢の酒をたっぷり味わっていただけました。十五から二十銘柄を堪能された方もおられたようです。

午後九時に終宴となり、三階で催された二次会も大いに盛り上がり、午後十一時半に閉会となりました。

「よかった」「面白かった」「また開催してほしい」とのお言葉を何人もの参加者からいただき、実行委員の一人として充実感を味わうことができました。皆さまありがとうございました。（小出和夫）













出品された銘酒とおいしい沼津の魚を材料にした肴



会社名と銘柄	会社名と銘柄
両関酒造(湯沢市) 秋田酒こまち100 純米酒「加賀仁」	富士錦酒造(芝川町) 純米吟醸「富士錦」
飛良泉本舗(にかほ市) 山廃純米酒「飛良泉」	英君酒造(由比町) 特別純米酒「英君」
秋田酒類製造(秋田市) 生酛特別純米酒 高清水「稲波」	神沢川酒造場(由比町) 純米吟醸「正雪」
日の丸醸造(横手市) 純米吟醸「まんさくの花」	三和酒造(静岡市) 純米吟醸「臥龍梅」
小玉醸造(湯上市) 純米酒「太平山 純米生酛」	吉屋酒造(静岡市) 特別本醸造酒「忠兵衛」
福乃友酒造(大仙市) 60(ろくまる) 純米酒「福乃友」	萩錦酒造(静岡市) 純米酒「駿河の生一本駿河酔」
那波商店(秋田市) 純米吟醸「ほろよい」	満寿一酒造(静岡市) 純米吟醸「満寿一」
純米酒「銀鱗 こまち美人」	君盃酒造(静岡市) 純米吟醸「君盃」
沼館酒造(横手市) 秋田酒こまち仕込純米酒「館の井」	初亀醸造(岡部町) 純米吟醸「初亀」
鈴木酒造店(大仙市) 純米酒 秀よし「秋の田」「空智」	磯自慢酒造(焼津市) 純米吟醸「磯自慢」
北鹿(大館市) 純米酒「雪中貯蔵 北鹿」	杉井酒造(藤枝市) 純米吟醸「杉錦」
浅舞酒造(横手市) 特別純米酒「天の戸美稲」	青島酒造(藤枝市) 純米吟醸「喜久酔」
千徳酒造(延岡市) 純米吟醸「夢の中まで」	志太泉酒造(藤枝市) 純米吟醸「志太泉」
特別純米酒「牧水のだりやめ」	大村屋酒造場(島田市) 純米吟醸「長い木の橋」
根上酒造店(御殿場市) 純米大吟醸「富嶽泉」	森本酒造(菊川市) 純米吟醸「小夜衣」
万大醸造(伊豆市) 特別本醸造酒「脇田屋」	土井酒造場(掛川市) 純米吟醸「開運」
渡辺酒造(沼津市) 純米吟醸「牧水」	山中酒造(掛川市) 純米吟醸「葵天下」
高嶋酒造(沼津市) 純米吟醸「白隠正宗」	曾我鶴・萩の蔵酒造(掛川市) 純米吟醸「萩の蔵」
富士高砂酒造(富士宮市) 純米吟醸「高砂」	國香酒造(袋井市) 純米吟醸「國香」
富士正酒造(富士宮市) 純米大吟醸「富士正」	千寿酒造(磐田市) 無農薬純米吟醸「千寿」
牧野酒造(富士宮市) 純米吟醸「白糸」「富士山」	花の舞酒造(浜松市) 純米吟醸「花の舞」

第八回若山牧水顕彰全国大会

平成十九年九月二十二日(土)二十三日(日)、
裾野市と裾野市教育委員会の主催で、「第八回
若山牧水顕彰全国大会」が開催された。

二十二日午前十時半、裾野市民文化セン
ターの牧水歌碑前で碑前祭で開会した。



碑前で挨拶する榎本望子館長

主催者である大橋俊二裾野市長の挨拶から
始まり、榎本望子当館館長等来賓の挨拶につ
づき、藤岡武雄裾野牧水を語る会会長の講話
が行われた。藤岡氏は、裾野市での牧水顕彰
全国大会が決まり一番喜んでいた故鈴木芳子
裾野市立鈴木図書館名誉館長のこの大会にか
けた熱い思いを紹介した。



藤岡武雄裾野牧水を語る会会長の講話

その後、裾野市合唱連盟による献歌、故鈴
木芳子氏の長男猪狩晋氏の挨拶、牧水の弟子
の鈴木俊一氏の孫鈴木靖氏による献酒、参加
者全員での献花が行われた。
午後一時、市民文化センター大ホールにて
裾野市合唱連盟と裾野市吟道連盟によるセレ
モニー「歌のアルバム」で大会の幕が開き、



碑前に献花する参加者たち



開会式の後、藤岡氏による記念公演「富士山と牧水と裾野市」があり、藤岡氏は、参加者に配られた『若山牧水と裾野市 作品と資料』を基に作品と資料を紹介しながら、「裾野市の風物と自然の姿を愛し求め続けた牧水の実像」「裾野市に住む鈴木俊一との出会い」「裾野市の自然の中に何を見、追求したか」「裾野

市から見る富士山に牧水はどうして魅せられたのか」の四つに要点を絞って、牧水と富士山と裾野市の関わりを語った。

つづいて、藤岡氏を司会に、榎本館長、須永秀生静岡県歌人協会会長、伊藤一彦若山牧水記念文学館館長、歌人の小島ゆかり氏、芹澤充寛裾野牧水を語る会副会長の五名のパネリストによる「21世紀に生きる牧水と富士山」をテーマとするシンポジウムが行われた。大会終了後、御殿場高原ホテルで催されたレセプションには、約百五十名が出席し、牧水について語り合い、和やかに親交を深めた。



パネラーの伊藤一彦先生、小島ゆかり先生、芹澤充寛先生



レセプションでの記念撮影

翌二十三日は、「牧水歌碑めぐり」が行われ、百一人が参加し、裾野市内に五ヶ所ある牧水歌碑を、市民文化センター↓市立富士山資料館↓須山の清水館↓鈴木秋灯宅↓裾野市中央公園↓文化センター↓三島駅の順路で三台のバスで巡った。

「けふもまた」の歌碑建立

岡山県新見市哲西町に建立された新しい牧水歌碑の除幕式が、平成十九年十月六日（土）午前十時から行われ、本会から林茂樹理事長と大澤敏夫が出席した。

牧水が、明治四十年に広島県との境の二本松峠で「幾山河越えさり行かば寂しさの終てなむ国ぞ今日も旅行く」けふもまたこころの鉦をうち鳴しうち鳴しつづあくがれて行く」の二首を詠んてから百年になる。

これを記念して、哲西牧水顕彰会（羽場幹恵会長）が「けふもまた」の歌碑の建立を提案し、若山牧水歌碑建立委員会（会長 深井正前町長）が設立され、千百三十五名と五団体から募った建設資金を基に、「幾山河」の歌碑のある「牧水二本松公園」の一角に、隣町との間を流れる東城川の川原から採取した石で歌碑が建立されることになった。

歌碑に刻む文字の揮毫は、榎本篁子当館館長に依頼された。除幕式前日に新見駅前のホテルで行われたレセプションで、榎本館長は「けふもまた」の大きな掛軸を前に、しきりに恐縮されていたが、見事な筆致に感嘆の聲が上ががり、歌碑の除幕に期待が寄せられた。



レセプションで挨拶する榎本篁子館長

除幕式は、快晴の秋空の下、大勢の参加を得て盛大に執り行われた。深井正歌碑建立委員会会長が挨拶の中で、牧水と哲西とのゆかりや歌碑建立の意義について語られた。新見市との合併前の哲西町当時から牧水の顕彰に町を挙げて取り組んで来られた前町長ならではの想いの深さが伝わって来た。榎本館長ご夫妻と二人のお孫さんや伊藤一彦日向市東郷町若山牧水記念文学館館長、林理事長ほかの来賓によって歌碑の除幕が行われ、淡い褐色の碑石に牧水の歌が墨色に刻まれた立派な歌碑の姿に大きな拍手がわいた。





歌碑前で記念撮影（左から筆者と伊藤、榎本、林の各氏）

榎本館長は、二本松峠に、祖父母の牧水・喜志子そして父旅人の歌碑につづいて、四つ目の歌碑が建立された喜びと感謝を述べ、哲西と牧水との縁の深さをしみじみと語った。来賓の祝辞に移り、哲西町当時総務課に勤務し、牧水顕彰事業に尽力した羽場洋一哲西支局長が新見市長のメッセージを代読し、林理事長が祝辞を述べ、伊藤一彦先生が牧水の「あくがれ」について解説しながら、新しい歌

碑の建立を寿いだ。つづいて、「吉備路の牧水」を取材し、牧水研究者として名高い塩田啓二岡山県歌人協会副会長が祝辞を述べた。同時に行われた短歌優秀作品の表彰では、羽場幹恵哲西牧水顕彰会会長が、校長時代と変わらないと思わせるやさしい声で、児童たちの作品を読み上げたの



牧水「幾山河」の歌碑と旅人の歌碑(右)



が印象に残った。東城ホールエコー、やまびこコーラスの合唱が秋空に広がり、正午前に式典は終了した。昼食会場となった熊谷屋で、郷土料理の山菜おこわを主にした昼食が振る舞われた。熊谷屋の南の庭に設けられた水上舞台で演じられる二本松牧水太鼓、小学生による牧水子供太鼓の音色が心地よく響きわたり、にぎやかな宴の中に歌碑除幕式は幕を閉じた。

(会員 大澤敏夫)

夫 榎本尚美とともに

えのもとのおよし

榎本 篁子
(沼津市若山牧水記念館館長)

昭和三十年八月十三日 晴
 中房で休息を十分とった。朝七時のバス有明行で山を下る。途中穂高より家へ電報「ゲカイハアツイ」と。全員と別れ、昼過ぎのバスで崖の湯に若山先生をお訪ねする。旅人さんのお子さん、篁子さん聚一さん純さんに初めてお目にかかる。みんな素直なよい子達であった。男の子二人と鉢伏山中腹まで登る。夜は子供達全員小生の部屋を訪問し、山の話などで楽しく過ごした。若山先生至極お元気。宿は山七旅館。泊まった部屋は八畳の一等室。宿料六百円。

昭和三十年八月十四日 晴

崖の湯は別名欠の湯とも云い、村井駅の東約3kmにあり、崖が欠けている所がある。若山先生は二、三年ここに静養しておられる由、もう一日泊まってお孫さん達と一緒に帰りたいところだが、病院をすっぽかすわけにもゆかず若山先生の色紙をいただき皆と別れを惜しみながらバスで松本へ向う。篁子さん、純ちゃん松本駅までお見送り下さる。列車の最後尾の席がとれ、手紙を書くことを約して別れた。初めての北アルプス縦走の最後を飾る楽しいひとときだった。

榎本尚美「山日記」(日本山岳会昭和30年版)



崖ノ湯にて 榎本尚美のザックを背負って (昭和30年8月14日)

その時、榎本三十歳、私は十五歳であった。

くれなるの内ごもり匂ふわが乙女
 はやくも人ととられむとする

はたちにもならぬに人に思はれて
 こころの背のびいそぐよこの子

わが篁子素肌レモンの色に冴えて
 嫁ぐべき五月日に日に迫る

喜志子

そのような出会いから三年、紆余曲折の後、
 祖母喜志子の強い薦めもあつて結婚。



丹沢塔ヶ岳山頂にて (昭和30年9月)

それから五十年の時が流れ、この二月二十一日、三週間の入院の末、八十三歳にあと一月を残して夫は亡くなった。
 榎本は、大正十四年三月に誕生してから、戦前戦中の激動期に人生をスタートし、戦後の復興と共に、国立病院外科で十年、麻酔科で三十年を医師として歩んだ一生だった。



麻酔科現役時代

晩年は、障害者総合福祉施設で医師の経験をいかした社会福祉への奉仕に最後まで携わり、医師としての務めを全うできた幸せは本望であったことであらう。

榎本の母が昭和九年、喜志子達の雑誌「婦人の友」短歌欄で特選になったことから喜志子に師事。その影響で水との縁ができ、私との結婚に至ったこともあって、新婚旅行も沼津の乗運寺へのお参り、「みなかみ紀行」の草津

その上、急遽祖母の代理で牧水・喜志子歌碑除幕式参列に蓼科へと、スタートからして牧水との関わりが生じ、その後も日常の中に組み込まれていった。

しかし、そのおかげで沼津牧水会の皆さまをはじめ牧水関係の方々との御交誼を得、大きな喜びをいただけたのである。

その中で、歌碑調査の必要を感じ、夫の理科系の目と文系の私との我々夫婦の集大成として、「若山牧水歌碑インデックス」を纏められたことは、二人の足跡として有難いことであつた。

今こうして彼の一生を顧みる時、本当に充実した、生ききつたといえる幸せな生涯であつたと心から思うのである。

それ程頑健ではなかった彼は、度々の病人として一番つらい直接的な痛み、また、心の痛みを味わい、その体験の一つ一つの積み重ねによつて麻酔の大切さを益々認識し、麻酔科の発展と共に努力した毎日であつた。

彼は、登山、写真、飛行機、鉄道と多くの趣味をもち、その何れをも仕事に活用した人である。例えば、航空機の運航チェックリストを知り、麻酔の安全に欠かせない要項をチェックリストに仕立て、指導に役立てたり、人を患部だけではなく全身で診る麻酔科医として、東洋医学に関心を持ち、鍼麻酔にも取り組んだ。それを歯科の抜歯に活かせないかと、「華岡青洲の妻」ではないが、私があるの第一号を申し出て効果を実証したりもした。



スイスのマッターホルンを背景に（平成6年7月）

これもひとえに皆さまのおかげと心からの感謝と御礼を申し上げます。

最後に、今年金婚式を迎えるはずであった亡夫に、父旅人が榎本の恩師に献じた歌を、妻として贈りたい。

数知れぬいのちを救ひたまひきて
たふとかりしよ君がひと代は 旅人
ありがとうございました。

第54回沼津牧水祭 短歌大会

十月七日(日)
午前十時三十分
沼津市立図書館



第五十四回沼津牧水祭短歌大会は、講師に岡野弘彦先生をお迎えし、標記のとおり開催された。出詠歌百八十首、出席者九十四名。司会須永秀生氏、講師紹介は曾根耕一氏。

「酒の神話・日向の神話」の演題で始められた先生の講演は、先ずテレビ番組などに見られる現代のおごりの世相を嘆かれ、美しい伝統を持つこの国の生いたちの地である日向

への思いを、古事記に触れながら豊かに語られた。神話が今でも日向の漁師の生活の中に生きていること、神話を持たない民族は亡ぶ、神に祈ることば―啓示―感謝となる畏れの大切さと、それが和歌の原点であったことを説かれた。そして過去を知るものは未来を予測することが出来る。和歌は相和する歌として、記録以前からことばにより伝えられて来た。長歌に対して短歌という呼称は即物的で味気ない。今年で千年になる源氏物語も柱として和歌があるので重みを持つ。紫式部は歌に心を込めている。等々。殊に神話は岡野先生の独壇場であるだけに深く感銘を受けた。また、牧水の随筆の中に見られる神話と歴史とのかわりに触れ、酒を好んだ牧水は酒についても古代への関心を持っていた。そしてその酒はしみりと思いを深め味わう酒であった。寂び声でする自作の朗詠は独特であったが、今にその声が残されていないのは惜しいなど、牧水への親しみを寄せられた。昼食の後、歌会へ入る。出席者のみを対象とし、原則として添削はしない。作者が自作を詠みあげた上で先生から評をいただく形で進められた。この方法は緊張感があつて好評であった。評の中から要点を記してみよう。地上から少し立ち上がったところに常に

思いを置くことが大切。作品が心と重くつながっていないければならない。お仕着せのことばは使わない。心のひだを詠む。会話を入れるのは親しみは出るがゆるむ。歌はなまじの比喩などで作るものではないと力説され、先生ならではの示唆に富んだ評は圧巻であった。

(青木朝子)

講師選の「牧水賞」と互選賞の上位三首

牧水賞一席 御殿場市 長田多津恵

わが思惟の及ばざる世を生きゆくか抱けば重しこのみどり児は

牧水賞二席 浜松市 太田 瑞代

タイヤ燃ゆレパノンに赤児抱きたる米兵

は道の真中をゆけり

牧水賞三席 伊東市 廣島 弥栄

華やきも寂しさもなくおどかに黄昏て

ゆくこの季が好き

市長賞 御殿場市 長田多津恵

わが思惟の及ばざる世を生きゆくか抱けば重しこのみどり児は

市議会議長賞 沼津市 須永 秀生

靴下が履けない妻の足元にひれ伏す形の

ひとときがある

教育長賞 三島市 小林 敦子

手術せぬを決めたる父と畑土手に今年の

夏の雲を見てをり

第54回沼津牧水祭

碑前祭・芝酒盛

十月二十一日(日)午前十一時

不順だった天候も十月になると回復し、碑前祭は好天の中で開催することができた。高橋正登副市長(斎藤衛市長の代理)、工藤達朗教育長、杉山功一市議会議長、文教消防委員会委員を始めとする市議会議員、牧水の祖父健海の出身地所沢市から若山本家の若山芳男夫妻、生地宮崎県日向市東郷町から若山牧水記念文学館の荒砂正伸氏、東京牧水会から和田昱二会長、田原大三事務局長等の来賓など多くの参加者を得て、にぎやかに催された。



定刻午前十一時に開会。林理事長の挨拶、高橋副市長と工藤教育長の祝辞、榎本篁子当館館長による献花・献酒と挨拶につづき、花柳寿宗師による牧水短歌と長詩「枯野の旅」の日本舞踊がしめやかに披露された。

引きつづき、第十八回「中学生短歌コンクール」の特選歌十首の表彰が行われ、純粹で瑞々しい短歌の数々に、大きな拍手が起った。式典の締めくくりは、恒例の「牧水のうた」を歌う会による合唱。「幾山河二しらたまの二うすべに」「なびき寄る」の四首の美しいハーモニーは、会場の内外の空間に吸い込まれて行つた。

式典が終わり、午後から、高橋副市長、杉山議長、和田東京牧水会会長、若山芳男氏、榎本館長の五人による清酒「牧水」の鏡割りのあと、杉山議長の首頭による乾杯で「芝酒盛」が始まった。

名物のおでんと焼き鳥を着に、「牧水」を酌み交わす和やかな風景が芝生のあちこちから見られた。岳心流沼津愛吟国風会有志が碑前で吟ずる牧水短歌の詩吟が会場に流れた。また、琴古流尺八師範の青木敬堂氏が今回初めて特別出演してくださり、二曲演奏したが、珍しい尺八の美しい演奏に会場の人々は聴き入った。



和太鼓演奏の芸能集団「ようそろ」は、結成八年目となり、各地での公演、交流を通して地域との絆を強めており、今回も若さと情熱をこめた撥(はち)さばきを披露してくれた。特に、はせみきた代表作曲の「沼津牧水太鼓」は、毎年円熟味を増しており、参加者の感動を盛り上げてくれた。常連の裾野五竜太鼓は、東北での公演のため休演で、残念ながら翌年の楽しみとなった。

紅白幕に囲まれた茶席では、三年前からご協力いただいている裏千家上村宗菊代表の宗菊会が、今年も抹茶を振舞ってください、心が和らぐ秋の一日だった。

(実行委員長 金子安夫)

第20回 雛の歌会

平成二十年三月一日(土)、第二十回「雛の歌会」は、燦燦と春の陽光のふりそそぐ若山牧水記念館のラウンジに、歌誌『かばん』発行人の井辻朱美先生をお迎えし、二時間半ほどの愉しい午後のひとときを持った。

投稿数百四首、ほぼ満席に近い会場に先生の歯切れのよい澄んだお声が隅々にまでよく届いた。「歌はバックグラウンドが理解出来るか出来ないかで、印象が変わること。この人



に会ってみたいと思わせる歌。その人らしさが出ている見方。物事に距離を置き、立ち姿が楽しそうな歌。あまり構えない歌。それらを基準に選歌した」と語った。

講師選の十首と短評を紹介する。

(三浦征江)

暮なずむ彼方の空へ妹は子の戒名の

「雲」を追いゆく 谷口トシ子

視点が空まで広がりロングショットがいい。

「可愛い！」に七十五歳は面食う試着

のコートに手を通しつつ 青木朝子

セリフの入れ方のセンスがいい。「面食う」が

楽に詠んでスツとしてる。顔をみたい一人。

木の間より洩れ来る明り独り身の隣人今

日も健やかなるか 大島千鶴子

助走から着地までが上手くいってる。

ヘルメットほれと渡されつかまれよ走り

し峠今朝は雪積む さとうふさこ

その人らしさが出て、構えない歌。

ねもころに眉ひき紅さすうつしみのいろ

はにほへとをみな年ふる 杉山春代

温かさと華やかさ、ことばに遊びがある。

鳥ならば恋し恋しと鳴くものをせめてと

どけと夫に経あぐ 杉山和子

ストリート、直球の歌。「鳴くものを」にゆとり

の心がある。

父母と神と仏の御座す生家なればたま
の初春のふとんの重さ 長野堯子

重いものを詠みながら、下句のゆとり、特に

結句がユニーク。

ひつそりと昨夜に降りしか雪明り心とき

めく天のまほろば 川島幸子

結句、「天のまほろば」が効いた。

北風に向つて糸引く子供等を髭武者の風

が空より睨む 菊地すみ江

視点の移動がよく、風の存在感が出ている。

風は武者絵でもいい。

ほほゑんでゐるやうな文字「ゑ」を書き

ぬ萎みるしもの膨らむでくる 星谷亜紀

知的で独自の発見がある。

十首の他に講師が特に触れた作品から。

睡蓮の花おはりたる大甕に來世まで足る

水満たしあり 三浦征江

大甕がわかりにくかったが、わかつて読みな

おした。下句の把握がよく充実した歌である。

菜の花の黄の色ゆらぎ亡き母の思い出

どつと押し寄せてくる 森田小夜子

上句を下句が際立たせた。

編みくれし唯一のセーター丈長しことし

も箆筒で年を越しをり 大石和雄

誰が編んだか言わない点が却つていいのかも

結句に味がある。

文化講座

美しい家紋

日時 平成19年9月1日(土)

講師 八十濱俊一氏



初心者のための短歌講座 牧水記念館短歌会

日時 平成19年4月～平成20年3月
毎月第2土曜日 午前・午後

講師 須永秀生氏



書道講座

日時 平成19年4月～平成20年3月
毎月第3火曜日 午後

講師 成田真洞氏



サロン音楽の夕べ

沼津市若山牧水記念館ラウンジ

第1回 古楽コンサートシリーズ20
『古楽器によるヴィヴァルディ 四季』
日 時：平成19年6月16日(土) 午後6時45分
出 演：渡邊慶子 (ヴァロック・ヴァイオリン)
丹沢広樹 (ヴァロック・ヴァイオリン)
庭山由記美 (ヴァロック・ヴァイオリン)
原田純子 (ヴァロック・ヴィオラ)
西沢央子 (ヴァロック・チェロ)
杉山佳代 (チェンバロ)



来場者：145人

若山牧水記念館コンサートの20年の記録 (昭和62年度から平成18年度)

年次	コンサート名	出演者	年次	コンサート名	出演者
昭和62年度	1 牧水を唄う - 牧水とその仲間たち	(指揮) 杉山一郎	49	クリスマスコンサート	佐藤允彦 峰 厚介 板井郁雄
	2 ギターデュオの夕べ	鈴木一郎 松本平行	50	笹喜美江 アコーディオンコンサート	笹喜美江 ほか
	3 鈴木千香子 エリック・サティを唄う	鈴木千香子 上原宏子	平成9年度		
昭和63年度	4 スペイン歌曲の夕べ	新実真琴 新井さより	51	京谷弘司クアルテットタンゴ	京谷弘司 ほか
	5 イタリヤギター・室内楽の夕べ	鈴木一郎 秋生昌平 ほか	52	千本松原MOROコンサート	諷星 暎 大久保敏之
	6 弦楽四重奏と歌曲の夕べ	原田大志 永坂邦彦 ほか	53	森の組曲コンサート	小馬嶋達也 フェビアン・レザノバ
	7 花鳥雛子 ソプラノアルバム	花鳥雛子 安藤友侯 ほか	54	夢鳴群コンサート	夢 鳴 群 周 越 紅
	8 リュート独奏 ダウランド歌曲	つのだたかし 新井さより	55	ギタリスト3コンサート	渡辺香津美 福田進一 鈴木大介
平成元年度			56	中村浩作品発表会	梅原 晃 Chor音美人
平成2年度	9 新春コンサート	伊藤 敏 福田進一	平成10年度		
	10 アコーディオン・コンサート	笹喜美江	57	チェンバロの夕べ	杉山佳代
	11 チェンバロ・コンサート	桑形重樹子	58	ジョイントコンサート in 牧水館	浅田朱美 佐々木雅子 大蔵旭晶
	12 夢鳴群 コンサート	夢 鳴 群 岡田全弘	59	牧水をめぐる歌曲演奏会	清水良一 山尾智子 矢島聖恵子
	13 キャンパレー・ヴォルフガング・モーツァルト	林 光 大石哲史	60	アゾット・リコーダー家族とチェンバロ	杉山佳代 多田逸左久
平成3年度	14 ヴァイオリンとチェロのための二重奏	花崎淳生 花崎 薫	平成11年度		
	15 ジャズボーカル・ナイト	笠伏裕子	61	名曲の夕べ	瓜川 浩 気賀 栄 藤村俊介
	16 ピアノコンサート	馬場主翁	62	バロックの愛と涙	杉山佳代 三浦玲子 櫻田 亨
	17 ファンタスティックハーモニカ	崎元 謙 松井久子	63	ラウンジコンサート in 牧水館	山田 薫 青木祐介 高井清志ほか
	18 シリーズ・日本のギタリスト I	福田進一	64	J.S.Bachの夕べ	杉山佳代 朝倉来米良
	19 アンサンブルコンソナツ	小林 裕 草刈麻紀 大沢昌生	平成12年度		
平成4年度	20 パーカッションの妙技	松倉利之	65	リコーダー音楽の愉しみ	杉山佳代 矢沢千宜 ほか
	21 合唱コンサート	夢 鳴 群	66	日本歌曲の冒険	鈴木千香子 飯島祐子 港 大翠
	22 シリーズ・日本のギタリスト II	佐藤紀雄	67	ウィーン ピアノ デュオ	タロヴァツツ兄弟
	23 コントラバス・ワンダーランド in 沼津	溝入敏三	68	音楽の花束	杉山佳代 坂本利文 坂本龍石
	24 アコーディオン・コンサート	笹喜美江	平成13年度		
平成5年度	25 11弦と6弦によるギター	イヨラン・セルシエル	69	P.ロカテリとJ.S.バッハの夕べ	杉山佳代 佐々木真 丹沢広樹ほか
	26 チャリティーコンサート	諸星夫妻とコール舞たち	70	リコーダーの世界	杉山佳代 吉沢 実 西谷尚己
	27 ジャズピアノ	本田竹暎	71	2台のチェンバロの夕べ	杉山佳代 木村聡子
	28 チェンバロ リサイタル	桑形重樹子	72	キリル・ポエフ ピアノリサイタル	キリル・ポエフ
	29 弦楽四重奏団	安田謙一郎 ほか	平成14年度		
	30 シリーズ・日本のギタリスト III	渡辺香津美	73	ひとときの音楽	杉山佳代 波多野時美
平成6年度	31 アイルランド民族楽器によるサウンド&トーク	守安 功 守安雅子	74	久元祐子のピアノによる風景	久元祐子
	32 クラリネット&ピアノ	赤坂達三 寺島隆也	75	フルートand筑前琵琶	川島祐子 大蔵旭晶 ほか
	33 夏の宵はボサノバ気分が陽気に!	金沢英明 城戸夕果 ほか	76	フランスの愛、イタリアの情熱	杉山佳代 中村 忠 西野潤一
	34 千本ファミリコンサート	男性コーラス「ボコス」	77	自然に 戯れる 音ども	杉山佳代 青木祐介 ほか
	35 Exciting Duo	中川昌巳 福田進一	平成15年度		
	36 X'masコンサート・林光の宮澤賢治	林 光 安田謙一郎	78	若い芽の演奏家たち	葉袋怜子 鈴木紀子 ほか
	37 アコーディオン+ハーモニカ	笹喜美江 崎元 謙	79	古楽器による弦楽アンサンブル	杉山佳代 渡邊慶子 丹沢広樹ほか
平成7年度	38 ピアノ&ベースコンサート	本田竹暎 坂井紅介	80	夢鳴群 男性コーラス	夢 鳴 群 ほか
	39 野坂恵子 弾リサイタル	野坂恵子	81	ギターとチェンバロの夕べ	杉山佳代 岩永浩信
	40 夢鳴群 in 牧水館	夢 鳴 群 大蔵旭晶	平成16年度		
	41 杉山佳代 チェンバロリサイタル	杉山佳代	82	オーボエ、ヴァイオリン、チェンバロの夕べ	杉山佳代 尾崎留子 桐山建志
	42 木管五重奏の夕べ	岩佐和弘 赤坂達三 ほか	83	モーツァルト その周辺	竹戸川智勝 宮村和宏 梅原 圭
	43 京谷弘司 と クアルテットタンゴ	京谷弘司 ほか	84	アイルランド 人、酒、音	守安 功 守安雅子
	44 パーカッションデュオ	クリストファー・ハーディ 新谷祥子	85	チェンバロとフルトピアノの出会い	杉山佳代 岩村かおる
平成8年度	45 シリーズ・日本のギタリスト IV	鈴木大介 岩佐和弘	86	バロック音楽の楽しみ	杉山佳代 古橋潤一 丹沢広樹ほか
	46 数住岸子+寺島隆也	数住岸子 寺島隆也	平成17年度		
	47 佐山真知子+志村 泉	佐山真知子 志村 泉	87	古楽器による郷愁のコンサート	杉山佳代 上杉紅童 聖田喜代
	48 渡辺香津美 パンサー・コンサート	渡辺香津美	88	男と女の人情歌物語	岡村壽生 磯部周平 安田裕子
			89	初秋に聴くクラシック	久元祐子
			90	モーツァルト・ドビュッシー歌曲の夕べ	鈴木千香子 濱野さえ子 ほか
			91	ヴィオラ・ダ・ガンバとチェンバロの夕べ	杉山佳代 神宮倫樹美
			92	藤原真理 白鳥	藤原真理 丸山 滋
			平成18年度		
			93	リコーダー、ソプラノ、チェンバロの夕べ	杉山佳代 嶋 和彦 広瀬奈緒
			94	生誕250年 モーツァルトの魅力	岡村壽生 磯部周平 安田裕子
			95	シューベルトとフォーレ歌曲の夕べ	鈴木千香子 濱野さえ子 ほか
			96	弦と管 魅惑のジョイント	王 晋峰 川島祐子

平成19年度事業報告書

総会 (第21回総会) 平成19年5月15日(水) 午後6時～7時30分
理事会 第1回 (通算110回) 平成19年4月24日(水) 午後6時～7時30分
第2回 (通算111回) 平成19年8月2日(水) 午後6時～6時50分
第3回 (通算112回) 平成19年12月1日(土) 午後6時～6時30分
第4回 (通算113回) 平成20年3月7日(金) 午後6時～7時

会報 第20号 平成19年5月15日発行
館報 第39号 平成19年9月20日発行
第40号 平成20年3月25日発行
『牧水 酒のうた』 平成19年9月21日発行

1 調査研究事業

(1) 第8回「百草園牧水碑前祭」(東京牧水会主催)

日時: 平成19年8月26日(日) 正午
会場: 東京都日野市百草園 牧水歌碑前
参加者: 金子安夫、小山和夫、原悦子

(2) 第57回 牧水祭 (宮崎県日向市主催)

日時: 平成19年9月17日(月) 午前10時
会場: 日向市東郷町坪谷 若山牧水家裏牧水歌碑前
及び牧水公園ふるさとの家

祝電打電

(3) 若山牧水顕彰全国大会 (裾野市、裾野市教育委員会主催)

日時: 平成19年9月22日(土)～23日(日)
場所: 裾野市市民文化センター
参加者: 林茂樹、青木朝子、赤澤照雄、浅井治、
磯崎剛、大澤敏夫、勝又十枝、金子安夫、
北村正昭、栗田昭子、小出和夫、飛澤浩四郎、
長澤靖夫、原悦子、三宅芳則、矢端純子、
大島葉子

(4) 新見市哲西町若山牧水歌碑除幕式 (若山牧水歌碑建立委員会主催)

日時: 平成19年10月6日(土)
場所: 岡山県新見市哲西町 牧水二本松公園
参加者: 榎本篁子館長、林茂樹、大澤敏夫

(5) 第12回若山牧水賞受賞式 (若山牧水賞運営委員会(宮崎県、 宮崎県教育委員会、宮崎日日新 聞社、延岡市、東郷町で構成) 主催)

日時: 平成20年2月6日(水)～7日(木)
会場: 宮崎市 ワールドコンベンションセンターサミット
(受賞者記念講演会: 延岡市 野口記念館)
受賞者: 香川ヒサ氏「Perspective (パースペクティブ)」
参加者: 林茂樹、大澤敏夫

2 第54回沼津牧水祭の運営

(1) 短歌大会

日時: 平成19年10月7日(日) 午前10時30分～午後3時
会場: 沼津市立図書館 視聴覚ホール
講師: 岡野弘彦氏 (若山牧水賞選考委員、歌会始詠進
歌道者)

応募短歌: 176首

参加者: 94人

(2) 碑前祭・芝酒盛

日時: 平成19年10月21日(日) 午前11時～午後2時
会場: 千本浜公園 牧水歌碑前
参加者: 約450人

3 開館20周年記念事業の運営

(1) 「日本ほろよい学会」沼津大会

日時: 平成19年9月21日(金) 午後6時
会場: 沼津東急ホテル4階 ロイヤル・ホール
基調講演: 佐佐木幸綱氏、伊藤一彦氏
アトラクション: 芸人寄合衆「ようそろ」による牧水太鼓演奏
参加者: 360人

4 文学講演会及び文学講座等の開催

(1) 文化講座

「美しい家紋」

日時: 平成19年9月1日(土) 午後1時30分～3時30分
会場: 沼津市若山牧水記念館ラウンジ
講師: 八十濱俊一氏
参加者: 32人

(2) 第20回「雛の歌会」

日時: 平成19年3月1日(土) 午後1時30分～4時
会場: 沼津市若山牧水記念館ラウンジ
講師: 井辻朱美氏 (「かばん」発行人)
応募短歌: 104首
参加者: 60人

(3) 初心者のための短歌講座

日時: 平成19年4月～平成20年3月
毎月第2土曜日 午前10時～12時

会場: 沼津市若山牧水記念館会議室

講師: 須永秀生氏

参加者: 延べ 225人

(4) 牧水記念館短歌会

日時: 平成19年4月～平成20年3月
毎月第2土曜日 午後1時30分～3時30分
会場: 沼津市若山牧水記念館会議室
講師: 須永秀生氏
参加者: 延べ 176人

(5) 書道講座

日時: 平成19年4月～平成20年3月
毎月第3火曜日 午後1時～3時

会場: 沼津市若山牧水記念館会議室

講師: 成田真洞氏

参加者: 延べ 122人

(6) 第18回「中学生短歌コンクール」募集・表彰

募集期間: 平成19年6月1日(金)～9月10日(月)
応募短歌: 1,833首 (16校 1,833人)
入選短歌: 51首 (51人)
選者: 青木朝子、須永秀生、杉山芳春、
曾根耕一、星谷亜紀
表彰: 平成19年10月21日(日)
沼津牧水祭碑前祭にて

5 企画展示

(1) 「中学生短歌コンクール」入賞作品(短冊)展示

期日: 平成19年10月21日(日)～11月4日(日)
会場: 沼津市若山牧水記念館ラウンジ
入場者: 469人

(2) 平成19年度書道講座受講者作品展示

期日: 平成20年3月19日(水)～3月30日(日)
会場: 沼津市若山牧水記念館ラウンジ
入場者: 374人

6 音楽イベント

第1回 古楽コンサートシリーズ20

『古楽器によるヴィヴァルディ 四季』

日時: 平成19年6月16日(土) 午後6時45分
会場: 沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出演: 渡邊慶子 (ヴァロック・ヴァイオリン)
丹沢広樹 (ヴァロック・ヴァイオリン)
庭山由記美 (ヴァロック・ヴァイオリン)
原田純子 (ヴァロック・ヴァイオリン)
西沢央子 (ヴァロック・チェロ)
杉山佳代 (チェンバロ)

来場者: 145人

社団法人沼津牧水会定款（抜粋）

- 第一条 この法人は、社団法人沼津牧水会という。
- 第二条 この法人は、事務所を静岡県沼津市千本郷林一九〇七番地の一一に置く。
- 第三条 この法人は、歌人若山牧水を顕彰し、文学的業績の研究を深め、短歌文学の普及を図り、もって、教育文化の振興に寄与することを目的とする。
- 第四条 この法人は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
- (1) 歌人若山牧水に関する調査研究
- (2) 沼津牧水祭（短歌大会および碑前祭）の運営
- (3) 文学講演会および文学講座の開催
- (4) 文学に関する各種出版物の刊行
- (5) 沼津市若山牧水記念館の管理運営の受託
- (6) その他前条の目的を達成するために必要な事業
- 第五条 この法人の会員は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は法人
- (2) 賛助会員 この法人の事業を援助する個人又は法人
- (3) 名誉会員 この法人に特に功労のあつた者で、総会の議決をもって推薦された者
- 第六条 会員にならうとする者は、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、名誉会員に推薦された者は、入会の手続きを要せず、本人の承諾をもって会員となるものとする。
- 第七条 この法人の入会金は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 一〇、〇〇〇円
- (2) 賛助会員 三〇、〇〇〇円以上
- 2 この法人の会費は、次のとおりとする。
- (1) 正会員 年額 五、〇〇〇円
- (2) 賛助会員 年額 一〇、〇〇〇円以上

（理事長） 林 茂樹
 （副理事長） 杉山 光男 須永 英男
 （理事） 浅井 治 保坂 輝夫 田中 和男 金子 安夫 四方 一弥
 八十濱俊一 杉山 芳春 長澤 靖夫 青木 朝子 星谷 昭子
 （監事） 杉山 重義 鈴木 弘行
 （事務局長） 金子 安夫
 （事務局） 大島 葉子 伊藤早智子 羽根田治子 木下 和子

編集後記

牧水没後八十年、沼津市若山牧水記念館開館二十周年記念事業として開催した「日本ほろよい学会」沼津大会は、参加された皆さまに大変よろこんでいただけました。当日の模様を紙面で振り返ってみました。

裾野市で開催された「若山牧水顕彰全国大会」も大盛会でした。

短歌大会の講師岡野弘彦先生の古事記を中心としたお話の詳細は、「館報」第四十号に掲載してあります。ぜひご覧ください。

碑前祭は、好天に恵まれ、初めてご出演いただいた青木敬堂先生の尺八の音色に酔いました。

井辻朱美先生を講師にお迎えした「離の歌会」は、今回も充実した歌会となりました。

新見市哲西町に建立された榎本篁子館長の揮毫による「牧水歌碑」の除幕式には、林理事長と大澤会員が出席いたしました。

牧水記念館コンサートも九十七回を数え、本年度中に通算百回を迎えることができそうです。

「日本ほろよい学会」が十月二十四日（金）に延岡市で開催される予定です。沼津に集った方々と一年ぶりに再会できることを楽しみにしております。

榎本館長のご主人榎本尚美先生がお亡くなりになりました。日本ほろよい学会」に参加していただいた時が、沼津でお会いした最後になってしまいました。

『若山牧水歌碑インデックス』を発行されるなど、牧水の顕彰に力を注がれた先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。